

妃たちのオーダーメイド セーヴル フランス宮廷の磁器

マダム・ポンパドゥール、マリー＝アントワネット、マリー＝ルイーズの愛した名窯

2025年4月5日(土)～6月8日(日)



①《青地色絵金彩花果文皿》1776-83年、個人蔵

ブルー・セレスト(天青色)と称されるセーヴル窯の軟質磁器特有の色。初期にはこの色が「王の青」と呼ばれた。【第2章】

◆展覧会概要

西洋磁器は、中国磁器への憧れからヨーロッパ各地で開発が試みられ、18世紀に入ってドイツ、マイセン窯で初めて焼成に成功しました。そしてフランス、ブルボン王朝が設立した王立セーヴル磁器製作所によって、真に西洋的な様式が創造されたと言って良いでしょう。その設立にはルイ15世と寵妃マダム・ポンパドゥール(侯爵夫人)が深く関わり、その後もフランス王室と帝室、共和国が運営を引き継ぎました。

セーヴル磁器のデザインはマイセンをはじめヨーロッパ諸窯に多大な影響を与え、西洋磁器のスタイルの基盤となりました。華麗な色彩を使って、当時流行のファッションを取り入れた小花文や花綱文をはじめ、鳥や人物、風景などを極めて絵画的な筆致で描いた作品群は、日本人がイメージする西洋磁器そのものといえるでしょう。

欧米においては、西洋諸窯のなかでセーヴル窯が最高峰とも称されているにもかかわらず、日本ではその魅力に触れる機会はあまりありませんでした。これはもともと王侯貴族向けの注文生産であったために現存数が限られているためです。しかしながら近年、日本でも優れたセーヴル磁器コレクションが確立されてきました。そこで本展では、国内コレクションにより、ルイ15世からナポレオン帝政時代を中心に、ポンパドゥール侯爵夫人、マリー＝アントワネット王妃、ジョゼフィーヌ皇后やマリー＝ルイーズ皇后などの妃たちがこよなく愛したセーヴル磁器の魅力を紹介します。

展覧会の会期・開館時間・イベント等が変更・中止となる場合がございます。最新情報は当館HPまたはSNS等でご確認いただきますようお願いいたします。

◇展覧会構成

第1章 ヴァンセンヌからセーヴルへ —ポンパドゥール侯爵夫人の夢—

セーヴル窯の前身は、1740年頃にパリの東方にあるヴァンセンヌ城にシャンティイ窯から逃れてきた陶工デュボア兄弟に始まります。活動を本格化させたヴァンセンヌ窯は、1756年にはポンパドゥール侯爵夫人の居城に近いセーヴルへ移転して「セーヴル窯」に改称し、1759年には夫人の献言により、ルイ15世(在位1715-74)の全額出資によって運営される「王立陶磁製作所」となりました。フランス国王の絶大なバックアップのもと、化学者、デザイナー、彫刻家、画家、金工家など当時の第一線で活躍する技術者・芸術家が製作に投入されました。



②《色絵金彩花文カップ&ソーサー》
1750-51年、個人蔵



③《瑠璃地色絵金彩鳥図双耳蓋付カップ&ソーサー》1759年、個人蔵



⑤《色絵金彩花文台付皿》1758年、Masa's Collection / 冷菓用アイスクップを並べるスタンドで、緑のリボンをあしらった意匠。1758年にオーストリア大公妃マリア・テレジアに贈られたサーヴィス(食器セット)の一つとされる。



④《淡紅地色絵金彩天使図四方皿》1759年、Masa's Collection / 側面に透かしを入れた角皿で、カップ&ソーサーのトレー。本作のピンク色はポンパドゥール侯爵夫人の時代にのみ使われた色で、後に「ポンパドゥール・ピンク」と称された。

この時期のセーヴルの製品は、精緻で優美な絵付と軽やかな色彩、優美な曲線の器形が特徴で、繊細華麗な逸楽の世界を表現するロココ美術の特色をよく示しています。
自然な姿の花々や鳥、天使たち、田園の中で幸せそうに過ごす子どもたちや愛のやり取りをする羊飼いの男女の姿などが好まれていました。



⑥《ピスク彫像「アルプスの羊飼い」》
原型1766年、実年代1770年頃、個人蔵

第2章 マリー＝アントワネットの宮廷で —王立磁器製作所の洗練と萌芽—

ルイ16世(在位1774-92)はセーヴル磁器の最大のパトロンであり愛好家であったといえます。ヴェルサイユ宮殿をはじめとする王宮をセーヴル磁器で満たし、王妃マリー＝アントワネットに贈るほか、国内外の外交用、政治用の贈答に使いました。

この時代のセーヴル窯の製品は、ポンパドゥール侯爵夫人の時代から、より軽やかな作風に変化し、王妃マリー＝アントワネットがリードした当時流行の服飾や室内装飾に共通する意匠の作品が加わりました。また、ポンペイなどの古代遺跡が発見されたことに刺激されて新古典主義がヨーロッパに広がると、甘美で装飾的なロココ様式に対して、ギリシア・ローマを規範とし、より均整の取れた荘重な様式を取り込んだ作品も現れます。



⑦《色絵金彩壺文カップ&ソケットソーサー》
1771年、個人蔵 / ルイ15世の寵妃デュ・バリ夫人のために作られたミルク用カップ。



⑧《色絵金彩花文皿》1781年、個人蔵 / マリー＝アントワネットが初めて自分から注文したサーヴィス、通称「薔薇と矢車菊の帯飾り」のうちの1枚。



⑨《藍地金彩七宝飾カメオ文カップ&ソーサー》1784年、個人蔵 / 真珠や翡翠、ルビーを模した盛り上がりのある、贅を尽くした七宝飾の技法で彩られる。この技法はルイ16世が外交的な贈り物にのみ使うように指示したという。

軟質磁器と硬質磁器

17世紀の東西貿易では、中国や日本の磁器が金や銀、宝石などと同様に高い価値のあるものとして取引されていました。ヨーロッパでは、まだ磁器(硬質磁器、白磁)を生産することができなかったためです。王侯貴族たちはこぞってそれらを手に入れ、宮殿を飾りました。

ヨーロッパで硬質磁器の原料となる磁土カオリンが発見され、1709年にマイセンで初めて白磁の焼成に成功しました。セーヴル窯では硬質磁器を模した軟質磁器が生産されていましたが、1768年にリモージュ近郊でカオリンが発見され、硬質磁器の製造が可能になりました。しかし軟質磁器の柔らかな輝きとソフトとした感触、色彩の豊かさは変わらぬ人気を保ち、セーヴルではその後も、軟質磁器と硬質磁器が並行して製作されていました。

第3章 マリー＝ルイズとナポレオンの時代 ―改革とアンピール様式―

フランス革命でセーヴルの重要な顧客である貴族の多くは死亡するか亡命し、セーヴル窯は存亡の危機に見舞われました。しかしヨーロッパ中で得ていた高い名声のためか、閉鎖は免れます。1800年に所長に就任したアレクサンドル・ブロンニャールは、合理的な考えの管理者、経営者としてすぐれた能力を発揮し、セーヴル窯の近代化に努めました。以降のセーヴル窯は、コストのかかる軟質磁器の生産をやめ、生産効率の良い硬質磁器生産に大きく舵を切りました。王侯貴族に求められた細々とした器種はなくなり、記念碑的なテーマの連作ものや公的傾向の強い正餐用サービスなどを製作しました。また、新古典主義を反映した、荘重・謹厳な趣のアンピール(帝政)様式を創出しました。



⑩《淡黄色地絵金彩花文動物図スープレック》1804年、個人蔵／ナポレオンの戴冠を記念して作られた。チュールリップとフォンテーヌの寓話の動物たちが描かれる。



⑪《淡褐色地絵金彩「セロリの葉をした薔薇図」皿》1821年、個人蔵／マリー＝アントワネットとジョゼフィーヌが庇護した花の画家P. J. ルドウルテが出版した『薔薇図譜』をもとに製作した薔薇のサービス。本作はジョゼフィーヌのバラ園にあった、失われた稀有な品種を描いたもの。

ナポレオン皇帝もセーヴル磁器に着目し、外交用・贈答用として活用しました。最初の皇妃ジョゼフィーヌ皇后、そしてオーストリア・ハプスブルク家からナポレオン皇帝に嫁ぎ、皇嗣を産んだ皇妃マリー＝ルイズ皇后もセーヴル磁器を愛用しました。

第4章 カップ＆ソーサーでたどるセーヴル ヴァンセンヌから現代まで ―河原勝洋コレクション―

町田市立博物館(現在休館中、2029年春頃に(仮称)町田市立国際工芸美術館として開館予定)が所蔵する河原勝洋コレクションは、ヴァンセンヌ窯およびセーヴル窯のカップ＆ソーサーに特化した110件余りからなる作品群で、西洋独自の飲食器文化の萌芽とその展開を一望できるものです。本展では選りすぐりの30件を紹介します。

18世紀中期、カップ＆ソーサーは、実用品であることはもちろん趣味の良さや豊富な財力を顕示するための美術品でもあり、社交や自己演出に欠かせないアイテムとなっていました。

⑫《青地色絵金彩風景図カップ＆ソーサー》1760年、町田市立博物館蔵(河原勝洋コレクション)／聖霊騎士団の最高勲章である青綬の色に基づいている。18世紀の他窯には見られない色で、1753-55年にかけて完成したルイ15世のための食器揃えで初めて用いられた。



◇会期中イベント

①記念対談「東洋の陶磁器 VS. 西洋の陶磁器」

日時：4月29日(火・祝) 午後2時～ 約1時間30分
 場所：地下2階ホール
 講師：矢島律子氏(本展監修者、鶴見大学文学部教授)
 松村真希子氏(本展監修者、美術史家)
 *無料(要入館料)
 *定員70名(要事前申込、応募者多数の場合は抽選)

②コンサート「チェロで馳せるセーヴル磁器・時空の旅～憧憬と創造～」

日時：5月11日(日) 午後2時～ 約1時間
 場所：地下2階ホール
 出演：水谷川優子氏(チェリスト)
 企画協力：株式会社ブライトワン
 *無料(要入館料)
 *定員70名(要事前申込、応募者多数の場合は抽選)

●学芸員によるギャラリートーク

4月19日(土)、5月9日(金)、25日(日)
 各日午後2時～ 約40分
 *無料(要入館料) *事前申込不要

③特別イベント

「アンティークのデミタスでコーヒータイム」

デミタスコレクター、村上和美氏のコレクションのデミタスでコーヒーをいただきながら、アンティークのカップ＆ソーサーの魅力についてお聞きします。
 ※セーヴルのデミタスではありません。
 日時：5月17日(土)
 A：午後2時～ / B：午後4時～ 各回約1時間
 場所：地下2階ホール
 講師：村上和美氏(デミタスコレクター)
 *無料(要入館料)
 *定員各回16名
 (要事前申込、応募者多数の場合は抽選)
 *お申込みの際は希望時間A/Bも明記してください。

※①～③の申込方法は次ページをご参照ください。

●館内建築ツアー

白井晟一設計の美術館建築を職員がご案内します。
 日時：会期中の各金曜日 各日午後6時～ 約40分
 *無料(要入館料) *各回定員約20名 *事前申込不要

◎イベント申込方法

往復はがきまたは当館ホームページ上の申込フォームにて承ります。

1通につき1名のお申込み可能。応募者多数の場合は抽選となります。

【往復はがき】〒・住所・氏名（ふりがな）・日中連絡のつく電話番号、参加希望のイベント（③は希望時間も）をご記入の上、各イベント係まで。

【申込フォーム】

当館ホームページ上のイベントフォームからお申込みください。

※締切（必着）①対談：4月12日（土） ②コンサート：4月24日（木） ③コーヒー：4月30日（水）

※迷惑メール等の受信制限をされている方は、事前に当館からのメール「@shoto-museum.jp」が受信できるようにドメイン設定をお願いいたします。なお、締切後1週間以内に抽選結果が届かない場合はお問い合わせください。

◇開催概要

展覧会名 妃たちのオーダーメイド セーヴル フランス宮廷の磁器

マダム・ボンパドゥール、マリー＝アントワネット、マリー＝ルイーズの愛した名窯

Sèvres Porcelain for the Courts of France

会期 2025年4月5日（土）～6月8日（日）

開館時間 午前10時～午後6時（毎週金曜日は午後8時まで） * 入館は閉館時間の30分前まで

入館料 一般800円(640円)、大学生640円(510円)、高校生・60歳以上400円(320円)、
小中学生100円(80円)

* ()内は団体10名以上及び渋谷区民の入館料 * 土・日曜日及び祝休日は小中学生無料
* 毎週金曜日は渋谷区民無料 * 障がい者及び付添の方1名は無料

休館日 月曜日(5月5日は開館)、4月30日(水)、5月7日(水)

主催 渋谷区立松濤美術館

協力 町田市立博物館、ロムドシン

企画協力 AsHI

会場 渋谷区立松濤美術館 〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14
電話：03-3465-9421 HP：https://shoto-museum.jp

交通案内

●京王井の頭線 神泉駅下車徒歩5分 ●JR・東京メトロ・東急電鉄 渋谷駅下車徒歩15分

※駐車場はございません

◇次回展覧会のご案内◇

6月21日(土)～8月17日(日)

「黙然たる反骨 安藤照 一没後・戦後80年 忠犬ハチ公像をつくった彫刻家―」

報道関係のお問い合わせ

広報担当 pr-sma@shoto-museum.jp 電話：03-3465-9421 FAX：03-3460-6366

- * 画像をご希望の場合は、作品名の前にある番号をお知らせください。チラシ掲載の画像も提供可能です。
- * 画像のご利用後、データは破棄してください。 * 画像の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- * 基本情報確認のため、一度校正をお送りください。 * 掲載後、見本誌をご送付くださいますようお願いいたします。